

(NECが手掛ける) 家庭用蓄電池の充放電を監視するサービスだ。当社は蓄電池それぞれの情報をクラウドに送信し、監視する技

### VPP 事業 各企業の

2014年の「産業競争力懇談会における研究会活動」で、VPPを社会に実装するために取り組みことを数社に提案させてもらっ

調も制御した。その中で当社は複数の調整役をまも上げるシステムを担当。主に低圧の機器を束ねる部分のシステム構築を担った。把握し、最適

# ガスタンクなど適用へ

## 日立など 点検支援も一括提供

### ドローンとAIのインフラ保守

日立製作所など3社は2日、ドローンで撮影した画像を人工知能(AI)で解析するインフラ点検サービスの適用範囲を石油タンクやガスタンクなどにも拡大すると発表した。画像をAIで解析して適切な点検頻度などを顧客に提案する内容だ。3社が個別で展開してきたドローン関連サービスを分野別にメニュー化し、点検支援や測量支援といった形で顧客の要望に合わせて一括提供する体制も整えた。

などに関わる建築物が対象だ。橋といった巨大設備や送配電設備などをドローンで撮影し、点検や測量に役立てることで顧客設備の保守を支援してきた。従来もドローンで撮影した送配電設備などの画像をAIで解析してきたが、顧客ニーズを踏まえて他分野にも

適用できるよう改良。石油タンクやガスタンクのほか、通信鉄塔と無線通信機器、信号設備などの点検もAIを使って支援できるようにした。AIを使う点検サービスは、過去の障害事例データベースを踏まえて劣化している可能性の高い地点を推定できる。錆を検出したり、劣化と汚れの動的に識別できる。画像解析を用いるためインフラ点検になる。今回は日立プラットフォ

日立製作所と日立システムズ、日立ソリューションズの3社が展開するドローンとAIを用いるインフラ点検サービスは「日立ドローンプラットフォー

ム」との名称。主にエネルギーや通信、交通

### 電力技術懇

## 国際標準化テーマに講演 再エネの動向を紹介

電力技術に関する座談会。専門家が集まり学連携の場を提供する「電力技術懇談会」(会長＝横山隆一・早稲田大学名誉教授)は9月27日、国際標準化をテーマとした講演会を都内で開いた。経済産業省産業技術環境局の中野宏和・国際電気標準課長が政府の戦略を解説した

ほか、専門家がスマートグリッドや需要家が持つ電力資源(リソース)の活用、再生可能エネルギーといった分野の動向を紹介。電力技術の海外展開で鍵となる国際標準化に関する意識向上を訴えた。中野課長はデジタル化の進展で業種をまたいだ新規ビジネスが次々と立ち上がり、国際標準化のスピード感も変わっている」と指摘。政府としても工業標準化法(JIS法)の改正や人材育成の支援などで、民間と連携しながら体制整備を進めていることを説明した。

富士電機技術開発本部の高橋弘担当部長は「国際電気標準会議(IEC)が昨年開始した再生可能エネルギーシステム認証(IEC RE)を紹介。個別の機器だけではなく、設計から運用、廃棄まで一連のシステムを評価する認証の仕組みについて講演した。



エネルギーに関わる国際標準化について議論した電力技術懇談会

誠シニアマネージャーはスマートグリッドの評価指標などを国際標準化する取り組みを紹介。早大先進グリッド技術研究所の小林延久主任研究員は、デマンドレスポンス(DR)など需要家側リソースを使った需給調整技術の国際規格を中心に解説した。

ニチコンは2019年1月に太陽光発電や電気自動車(EV)、電力システムの電気を同時に供給できるV2H(車から宅内への給電)システムを販売する。再生可能エネルギー固定価格買取制度(FIT)事業にも参加

GE製GT

## 「最優秀ガス火力」に選定

米ゼネラル・エレクトリック(GE)は1日(現地時間)、同社のH型ガスタービンを採用した中部電力西名古屋火力発電所が米有力誌の「2018年最優秀ガス発電所プロジェクト」に選ばれたと発表した。米電力業界誌「POWER」が40年以上にわたって表彰している賞で、今回は西名古屋火力を含む2発電所の卓越した性能と技術革新、業界に与えたインパ

## ニチコン 低価格V2 VPP対

の買い取り期見据えた製品用の通常モデル向け通信規格ネットワークシステムを販売する。再生可能エネルギー固定価格買取制度(FIT)事業にも参加